



かけがえのない「ふるさと秋田」の実現に向けて

秋田県知事 佐竹 敬久

歴史的な経済危機を契機として、世界、日本、そして秋田においても社会経済情勢は、ますます不透明感が増しております。本県では、経済雇用情勢がかつてないほど悪化していることに加え、国内で最も早いスピードで人口減少が続き少子高齢化が急速に進むなど厳しい状況にあります。こうした中で、将来に向けて希望が持てる秋田を実現するために、今こそ、県民のパワーを最大限に引き出し、その力を結集し、困難に立ち向かっていかなければなりません。

そのために、「対話型の県政運営」を基本に据え、広く県民の皆様からの意見や提言に耳を傾け、県議会や市町村とも十分に議論を重ねながら、政策形成を図り、具体的な施策・事業を展開したいと考えております。まず、「新たな視点からの産業再構築と雇用の創出・安定」についてです。

現下の厳しい経済雇用情勢を受け、現に秋田に立地する企業を伸ばし、雇用の維持拡大を図るため、秋田に根付いた高度技術産業の拡充、地場産業の再生や観光サービス業などの地域資源型産業の振興など、産業の再構築を図ります。

また、日本海を通して東アジアへの表玄関に位置する秋田は大きな可能性を秘めており、対岸のみならず東アジア全域、ヨーロッパまでを見通した貿易振興を図ります。

次に、「新生秋田農林漁業の挑戦」についてです。

国際的な食料需給環境の変化、自給率向上に向けた国民、消費者の期待を踏まえ、本県の農林漁業の持つ可能性に目を向けてまいります。

水田農業については、主食用米を基軸としながら、超多収品種の導入を通じ、米粉用や飼料用米の増産などによる水田の徹底した有効活用を図ります。

果樹、野菜、畜産物については、安定供給体制を確立するとともに、ブランドイメージを定着させ、海外も含め県外出荷を拡大します。

また、農工商連携を通じた新商品開発や販路拡大など、農業ビジネスの新たな展開を図ります。

次に、「くらしの安心、未来の安心」についてです。

医療、年金など、将来への漠然とした不安が、現実のものとなりつつある中で、地域活力を維持していくためには、何よりも、県民が安心して生活できるような環境を整備していくことが重要です。

特に、地域医療については、県民が農村や過疎地に住んでいても、都市部と同様の医療サービスを受けられるようにする必要があり、医師の養成・確保を図りながら、地域中核病院の整備や移動診療システムの採用などにより県民への公平な受診機会の提供に努めてまいります。

次に、「未来の活力につながる子供の国づくり」についてです。

少子化が急速に進む本県においては、結婚し子供を産み育てることのできる環境を整え、人口減少を少しでも食い止める必要があります。

このため、知事自らが本部長となる「少子化政策本部」を設置し、青少年の意識の醸成、結婚機会の向上、働く人の立場での保育機能の充実、地域力による子育て支援など、総合的な取組みを進めます。

次に、「秋田教育の構築と文化・スポーツ立県の実現」についてです。

将来の秋田を支える人材育成のために、生徒の学力向上と郷土愛を育む地域教育の充実に努めます。

また、多様な文化活動を生きがいづくり、社会づくりにつなげていく取組みを積極的に進めます。

スポーツについては、秋田の情報発信にもつなげるプロスポーツチームづくりを県民運動として展開するなど、スポーツ王国復活に向けた取組みを強化します。

次に、「環境先進県・秋田づくり」についてです。

水と緑に恵まれた豊かな自然環境は、秋田の財産であり、環境重視型社会においては大きな強みにもなります。

こうしたことから、県民一人ひとりが、家庭や個人の立場で環境保全に取り組む大切さをPRしながら、県民によるエコ活動を促進してまいります。

また、県内に豊富に存在する風力やバイオマスなどの新エネルギーの活用促進など、「環境先進県・秋田づくり」を目指してまいります。

今、秋田は、逆風の真ただ中にある。しかし、強い逆風下にあっても、二十一世紀を担う大切な子どもたちに、かけがえのない「ふるさと秋田」をしつかりと引き継ぐことが、今に責任を持つ私たちの責務であると考えております。

時代の大転換期だからこそ、夢をかたちにするために、秋田をもっと変えるために、県民の皆様とともにあきらめない強い「こころ」を持って、秋田の可能性に大胆にチャレンジしてまいります。